

唐招提寺

第13回「みどり香るまちづくり」企画コンテスト

企画名：唐招提寺「香りの薬草園」
鑑真和上 才花苑

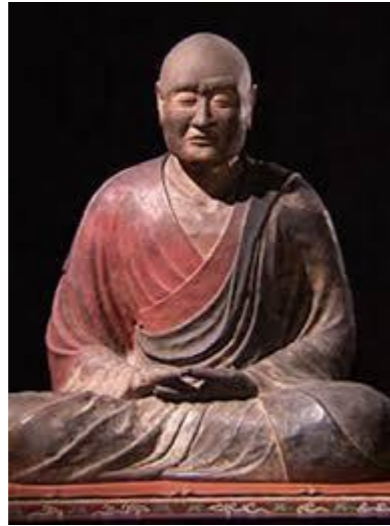
企画申請団体：宗教法人

唐招提寺

共同企画団体：鑑真和上才花苑・運営委員会
あをによし奈良ガーデンリンク



唐招提寺薬草園



唐招提寺は、南都六宗の一つである律宗の総本山です。多くの苦難の末、来日を果たされた鑑真和上は、東大寺で5年間過ごされた後、聖武天皇の帰依を受け、天平宝字3年(759年)、戒律を学ぶための修行道場を開き、「唐律招提」と名付けられました。これが唐招提寺の始まりです。奈良時代に建立された金堂や講堂が現存し、天平の息吹を伝える貴重な加蓋となっています。また、唐招提寺は、「蓮の寺」として長く親しまれてきました。蓮は、仏教では神聖な花とされ、鑑真和上が御将来されたことと伝えられる「唐招提寺蓮」をはじめ、境内の池および陶器の蓮鉢で多数の品種を栽培し、毎夏、参拝者の目を楽しませています。1998年、ユネスコより、古都・奈良の文化財の一部として世界遺産に登録されました。この唐招提寺境内に、「香りの薬草園」を創設し、年間約30万人の参拝者の方々に公開し、香りの良い薬草を身近に触れ、鑑真和上の功績に関心を持って頂くことが、本計画の趣旨です。薬草園に植栽する薬草、薬木は、鑑真和上と関係があり、唐時代から現代まで、医療に重用されている薬物の中から、唐招提寺境内という地理的な気象環境に適合し、十分生育すると考えられるものを選別します。民衆の救済に生涯を尽くされた鑑真和上の想いを現代に伝え、訪れた人々が良い香りに癒され、活力を得るような薬草園をつくるのが、私共の願いです。



鑑真和上もたらした薬草

鑑真和上は、奈良時代の日本に多くの仏典や教義、戒律をもたらすと同時に、書道や彫刻、薬草等への造詣が深く、唐招提寺の庭に薬草園を作って栽培し、漢方の薬草や香料の調合などを日本に伝えたと言われています。中国医学の正しい伝統を継ぐ医学、薬学を日本にもたらした最初の現身の人であり、現代の日本において治病効果に威力を発揮する漢方医学の鼻祖としても崇められる所以でもあります。1988年、植物分類学者、橋本竹二郎氏が中心となり、その指導の下、唐招提寺境内、戒壇の南側に、鑑真和上所縁の薬草を植えた薬草園が作られました。それ以来、橋本氏の知己の鑑真和上才花苑・運営委員会のメンバー(岐阜市)が、度々、奈良・唐招提寺へ足を運び、薬草園の保全に携わってきました。



唐招提寺・薬草園での奉仕活動の様子



日本の香文化のルーツは唐招提寺にあり

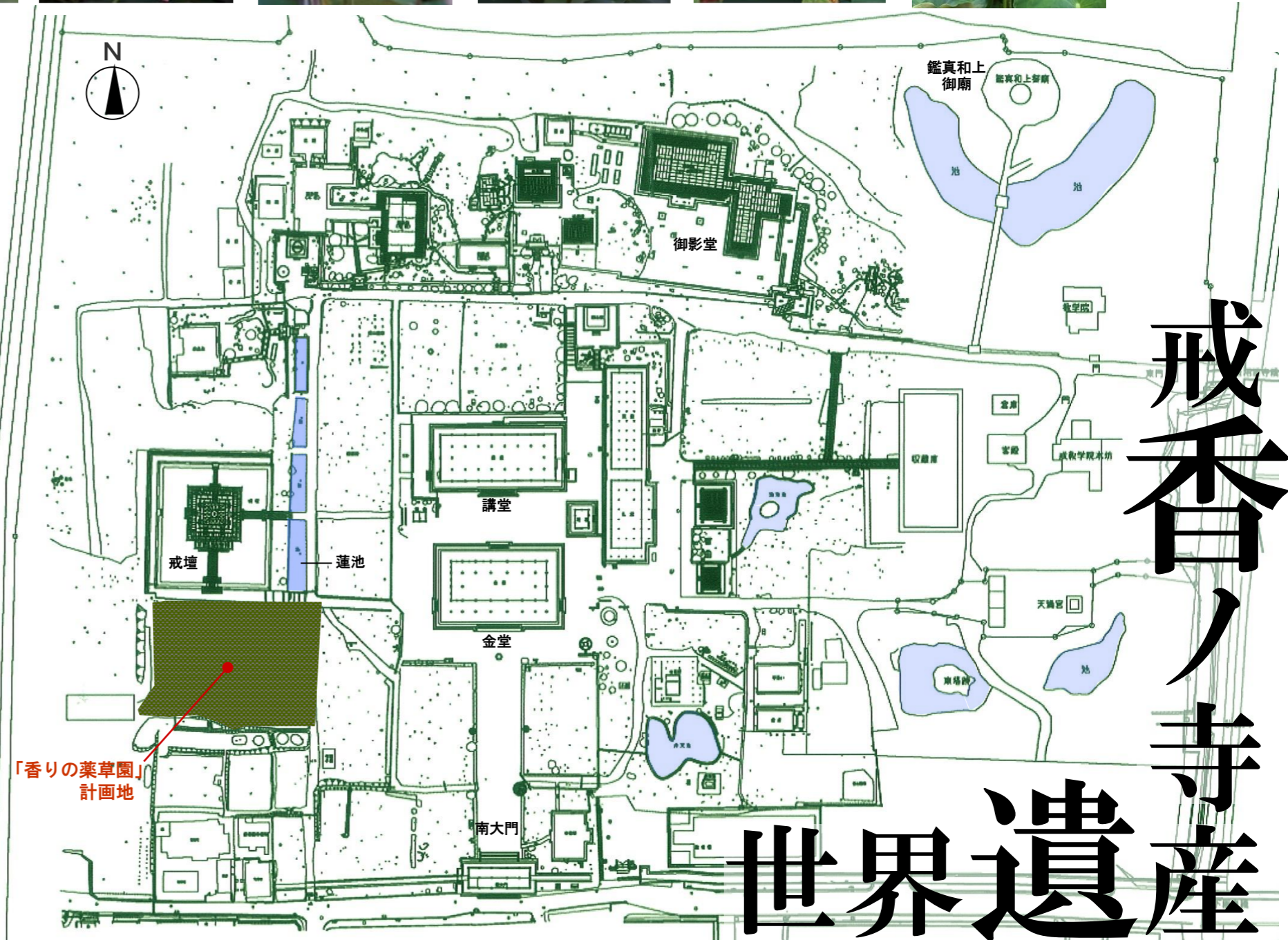
鑑真和上の渡日の際の積載目録には、多くの香木や香料、薬草類が含まれていました。香料植物には不思議な力が宿り、人の病も癒すと考えられていたのです。香は当初、寺院の仏前を清める「供え香」として仏教儀式にて用いられていましたが、平安時代になると、日常生活に於いて部屋や衣類に香りを焚きしめ、香り空間を生み出す「空薫物(そらたきもの)」を楽しむ風習が貴族の間で広がります。「薫物」とは種々の香を練り合わせたもので、この様々な香葉と焼香などの調合技術、中国医学とともに日本に伝えたのが鑑真和上とされているのです。平安貴族たちは、より洗練された優美な香り求め、独自のセンスで調合したお家ごとの秘伝の香りを披露し、競い合う「薫物合わせ」なる遊戯を嗜むようになり、この日本独自の香り文化は、時代の変遷とともに発展し、「香道」へと受け継がれます。鑑真和上によってもたらされた様々な香木や薬草、漢薬は、時代を経ても脈々と引き継がれ、現代日本のお香にも原料として使用されているのです。



岐阜県関市洞戸地区にある神薬才花苑

世界遺産に「香り環境」を創出

1999年、金堂の修復工事(平成の大修理)の準備に伴い、薬草園は一旦取り壊され、薬草、薬木は、岐阜県関市の山あいに造られた「神薬才花苑」へと疎開。移植された薬草・薬木など、現在約150種類に上り、岐阜の有志により大切に育てられています。約10年間に亘る平成の大修理が終わり、この度、休園となっていた薬草園を新しく再建する運びとなりました。薬草園再開後は、鑑真和上才花苑運営委員会が定期的なメンテナンスを実施する一方、「唐招提寺薬草友の会」を設立。薬草園の維持費の寄進を募るとともに、日常的な管理作業に協力していただける地元・奈良での有志を募集。薬草園建設の想いを引き継ぎ、長期に亘って薬草園の維持発展に努力していただける人材育成に力を入れ、薬草に関する講演や実作業講習会等も開催したいと考えています。世界遺産に登録された唐招提寺には、国内は勿論、遠く海外からも年間約30万人の参拝客が訪れます。「この歴史ある世界遺産の境内に、新たに《香り空間》を創出し、ここを参拝する人々が香木や薬草といった香り植物に触れ、心癒され明日への活力を得ることができる庭としたい。そして、《戒香(良い香りがあたり一面に広がるように、徳が四方に及ぶこと)》、その言葉通り、苦難を乗り越え、国の発展に尽くされた鑑真和上の功徳に想いを馳せ、関心を持っていただく場として、この薬草園を後世に守り伝えていきたい。」この想いを胸に、関係各所と連携しながら、当計画を進めて参りたいと考えています。



戒香ノ寺産 世界遺産

唐招提寺

第13回「みどり香るまちづくり」企画コンテスト

企画名：唐招提寺「香りの薬草園」
鑑真和上 才花苑

企画申請団体：宗教法人

唐招提寺

共同企画団体：鑑真和上才花苑・運営委員会
あをによし奈良ガーデンリンク



唐招提寺薬草園



▼ 薬草苑計画地の現況写真



写真①



写真②



▲ 完成予想図（俯瞰パース）

本計画では、着工の時的制約から、計画地を3つのゾーンに分割し、それぞれにテーマを設定した造園計画となっています。関係監督庁の許認可を取得後、まず第一期工事として、計画地の東南部分に、「ゾーン1/薬草苑」を整備します。薬草苑には、岐阜県関市の神楽才花苑に疎開させている薬木・薬草の中から、「香る品種」を中心に植栽する予定です。現在、唐招提寺では、金堂の大修理に続き、御影堂の大修理が行われています。その関係で薬草園計画地の一角に、御影堂の曳家工事により疎開させたキンモクセイなどの高木を仮植しています。3年後の2022年、御影堂の改修工事完了後に、仮植した植栽を御影堂付近に戻すタイミングで、「ゾーン2/蓮池」と、「ゾーン3/茶庭」の造園工事に着手する予定となっています。薬草園は、北側の戒壇と対峙する形で計画され、全ゾーン完成の暁には、戒壇にて僧侶となるための儀式が執り行われる際、薬草園の南門から北門へ、香りの薬草園の中を通過して、僧侶一行が戒壇へアプローチするという儀礼空間としての機能も併せ持つこととなります。

シーン	樹木名	本数	シーン	樹木名	本数
A	紫蘭 (シラン)	50株	F	オウゴン	20株
A	麻黄 (マオウ)	20株	G	イブキジャコウソウ	50株
A	地黄 (ジオウ)	20株	H	大和トウキ	20株
B	桔梗 (キキョウ)	20株	H	テンモンドウ	20株
B	紫 (ムラサキ)	20株	I	ミソハギ	20株
C	牡丹 (ボタン)	10株	J	ミシマサイコ	20株
C	芍薬 (シャクヤク)	10株	J	ワレモコウ	20株
D	西安エンゴサク	20株	J	オミナエシ	20株
D	ホソバタイセイ	20株	K	八重ドクダミ	20株
E	アミガサユリ	20株	L	紫蘇 (シソ)	30株
E	イカリソウ	20株	L	日本ハッカ	30株
F	ウツボグサ	20株	L	シヨウガ	30株

シーン	草花名	株数	シーン	草花名	株数
M	高良姜 (コウリョウキョウ)	20株	S	芍薬 (シャクヤク)	20株
N	ヒオウギ	30株	T	カマヤマショウブ	50株
N	最上ベニバナ	30株	U	オオボウシバナ	50株
O	カマヤマショウブ	100株	U	ウイキョウ	20株
P	アカンサス	50株	V	シュウカイドウ	20株
P	ジャノヒゲ	50株	V	シュウメイギク	20株
P	タンジシ	50株	V	ハイシマカンギク	20株
Q	玫瑰 (マイカイ)	10株	W	シャガ	50株
Q	フォーレストド・ローズ・オブ・チャイナ	4株	W	ホタルブクロ	20株
R	甘茶 (アマチャ)	10株	X	シモツケ	20株
R	山菜陽花 (ヤマアジサイ)	10株	Y	ヤブラン	100株
S	牡丹 (ボタン)	10株	Z	蓮 (ハス) ※既存	100株

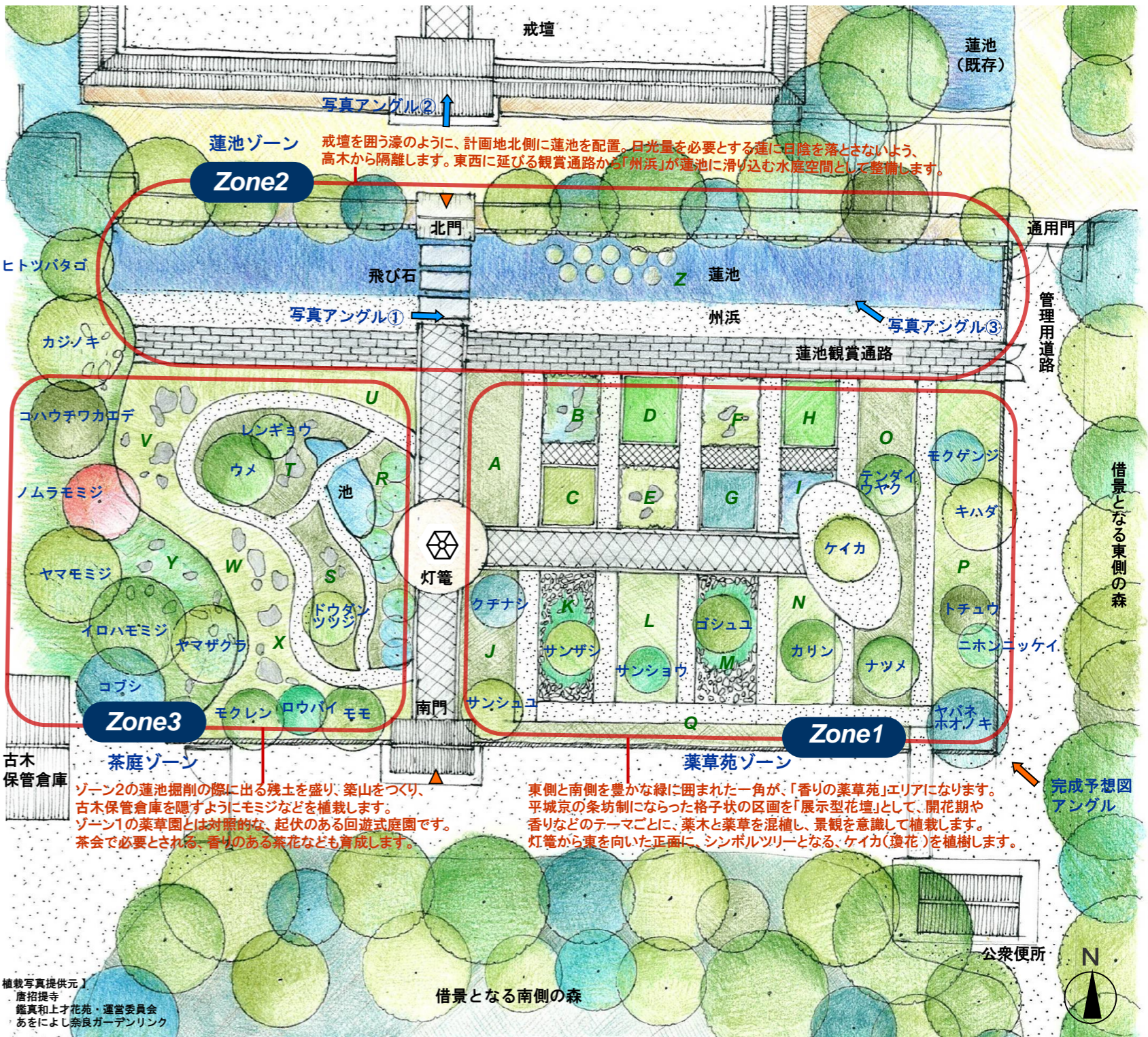
ゾーン	樹木名	本数	ゾーン	樹木名	本数
1	瓊花 (ケイカ)	1本	2	連翹 (レンギョウ)	1本
1	朴の木 (ホオノキ)	1本	2	梅 (ウメ)	1本
1	杜仲 (トチュウ)	1本	2	桃 (モモ)	1本
1	黄柏 (キハダ)	1本	2	銀梅 (ロウバイ)	1本
1	日本肉桂 (ニホンニッケイ)	1本	2	木蓮 (モクレン)	1本
1	木綿子 (モクゲンジ)	1本	2	山桜 (ヤマザクラ)	1本
1	葉 (ナツメ)	1本	2	辛夷 (コブシ)	1本
1	花梨 (カリン)	1本	2	イロハモミジ	1本
1	天台烏藥 (テンダイウヤク)	1本	2	ヤマモミジ	1本
1	呉茱萸 (ゴシュユ)	1本	2	ノムラモミジ	1本
1	山菜陽花 (サンシュユ)	1本	2	コハチウワカエデ	1本
1	山査子 (サンザシ)	1本	2	ドウダンツツジ	1本
1	山椒 (サンショウ)	1本	3	ヒトツバタゴ	1本
1	梔子 (ウチナン)	1本	3	カジノキ	1本



◀ ゾーン1/薬草苑のシンボルツリー：瓊花(ケイカ)

薬草苑の正面奥には、鑑真和上の故郷、中国揚州市の大明寺から贈られた 門外不出の名花、ケイカを薬草園のシンボルツリーとして配置します。ケイカは、スイカズラ科の中木(4~5m)で、ガクアジサイに似た白い可憐な花を4月に咲かせ、その周囲には微かな甘い香りが漂います。現在、岐阜県関市洞戸地区にある、「神楽才花苑」にて、接ぎ木育成中のものを移植する予定です。

March	April	May	June	July	August	September
レンギョウ	イカリソウ	シャクヤク	シラン	イブキジャコウソウ	八重ドクダミ	ハス
サンシュユ	カリン	マイカイ	ヤバネホオノキ	ヤマトウキ	紫蘇	アマチャ
モモ	ボタン	カマヤマショウブ	サンザシ	クチナン	ウイキョウ	日本ニッケイ
キキョウ	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko
ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko	ナadeshiko



【植栽写真提供元】
唐招提寺
鑑真和上才花苑・運営委員会
あをによし奈良ガーデンリンク